

尿管結石について

平成29年8月放送

澤田 樹佳

尿の通り道である腎杯(じんぱい)・腎盂(じんう)・尿管・膀胱・尿道をまとめて尿路といいます。

この尿路にできた結石が、尿路結石です。部位によって腎杯結石、腎盂結石、尿管結石、膀胱結石、尿道結石と呼びます。腎盂・腎杯で形成された結石が尿管に下降し、その結石が尿管に留まった結果、尿の通過障害を来し疝痛(せんつう)発作といわれる七転八倒するほどの激しい痛みや血尿が起こりますが、これが尿管結石の典型的症状です。この痛みは男性では生涯でいちばんの痛みであると言われていています。女性では出産に次ぐ痛みであると表現されています。激しい腰背部痛・側腹部痛・下腹部痛のほかに、吐き気や嘔吐を伴うこともあります。しかし、結石が腎盂や腎杯にある場合にはほとんど症状が起こりません。



尿路結石は30～60代の男性に多いとされています。

男女比はおおよそ5対2とされており男性の方が2.5倍かかりやすい疾患です。

尿路結石は近年増加傾向にあり、日本人が生涯のうちに結石に罹患する確率は約10%、つまり10人に1人は結石にかかると報告されています。主な原因は

体質によるものとされていますが詳細についてはわかっていない部分も多いとされています。

結石の成分の90%以上はカルシウムを含むカルシウム結石で、X線検査で白い影として写ります。代表的な結石は、シュウ酸カルシウムで、他にはリン酸カルシウム、またはその複合結石が大多数を占めます。そのほか稀な結石とし

て尿酸結石、リン酸マグネシウムアンモニウム結石、シスチン結石などがあります。

症状がある場合の約70%は自然排石し、30%は手術を必要とします。結石は8mm以下、とくに5mm以下は自然排石の可能性があり、全体では尿路結石の約60%は自然排石するといわれています。

手術には結石の位置に応じて様々な方法があります。一般的な尿管結石であれば従来は体外衝撃波尿路結石破砕術が一般的でした。この方法は体外から衝撃波を当てることによって結石を細かくし排石を促す方法です。市内の総合病院にも装置があり、一泊二日で処置が可能です。麻酔が不要で、短期間で入院が済むというメリットがある一方で、治療までに数度の破砕が必要になるケースがあります。

最近では内視鏡が急速に発展していることから経尿道的尿路結石除去術が多くの施設で普及しています。この方法は、腰椎麻酔あるいは全身麻酔下に内視鏡を尿路に挿入しレーザーなどの碎石装置を用いて術者が実際に結石を見ながら碎石を行う方法です。先の体外衝撃波に比べ、院期間は数日のびますが、結石さえ同定することが出来れば、ほぼ確実に碎石することが可能です。

結石による痛みで困った場合には泌尿器科を受診して下さい。